CONCERTINO *di* KYOTO

第12回 演奏会

'70 / 11月29日(日)7:00P.M. 大谷ホール / 指揮 / 井手章夫・ピアノ / 辛島輝治・絃楽合奏 / コンチェルティーノ ディ キョウト

美しき絃の世界

絃楽の合奏はほんとうに美しいと思います。　一寸昔のことですが、私はベルリンの或る夜のコンサートの思い出、その夜は、ベルリンフィルハルモニーの絃楽とクーレンカンプのバイオリンとのコンサートでしたが、その夜のビバルディのト短調バイオリン協奏曲の美しさを終生忘れることが出来ないほど、合奏の絃の美しさに打たれてきいたのでした。独奏と絃楽の伴奏、……

何という純粋な美しい絃の世界でしょう。

一九二三年の秋の夜の思い出です。

コンチェルティーノ、ディ、キョウトの絃楽合奏も、年々美しく立派になってゆくことを、私も心からうれしく思います、芸術の香りの高さ、その純粋な美しさは、美しい絃のひびきへの精進とアンサンブルの調和の美しさへの音楽的成長と相待って、この度の発表会も、さぞ一段と傍れた芸術性を発揮せられることと思います。

皆さんの純粋な芸術への歩み、益々、高度な芸術の世界をめざして精進していらっしゃる姿を、私は心から讃え、心からの拍手をお送りしたいと思います。

それは美しくも又浄らかなる生命のうた声、

静けくも又たのしい当夜のひとときは、来会の皆さんにとっても、心のオアシスであり、生命の喜びの瞬間でありますように。

才能教育研究会会長　鈴木鎮一

ごあいさつ

今回は辛島先生を御迎えして、今年も又年に一度のコンチェルテイーノの演奏会を持つことができました。辛島先生には、第一線で御活躍に御多忙を極める中を、私共の為に貴重な時間を割いていただきまして本当に有難う御座いました。そしてこの運びに到りましたことはひとえに才能教育研究会京都支部会員各位始め、皆様の御支援の賜と厚く御礼申し上げる次第で御座います。

鈴木鎮一先生の才能教育運動が、昨今幼児開発の、いわゆる教育は施すに早ければ早い程良いということで、世の注目を集めていることについて、それに賛同する一人として御同慶にたえません。これはバイオリンの早期教育としての、いわゆるスズキメソードが、広く国の内外で高く評価され、バイオリンに止まらず、チェロ、ピアノと最近頓にその発展をみて来た確実で、偉大な業績による結果といえると思います。

私は、鈴木先生の才能教育が、単に早期教育のスズキ、バイオリンのスズキということだけに止まらず、鈴木先生自身が、もっと深遠な一点を見つめられていることを最近特に思うようになってまいりました。

「どの子も育つ、育て方一つ」という鈴木先生の言葉の、育つということを、私なりに「世界に通用する次の世代を育てる」という意味で受止めたいと思います。

公害をまき散らしながら、ひたすらG.N.P.の鬼のようにあくせくする日本を世界の識者が心から尊敬していないということは、ロベール・ギランの論評の「日本人よ、もういいかげんにしてくれ」(朝日新聞)がよくその一端を示しています。

鈴木先生の早期教育に、音楽が単にその実験の手段に用いられたということでなくて、音楽にこそ、幼児を開発し育て得る極めて重要なものがあるということであります。

今日ここで才能教育によって育ったコンチェルティーノの青年がバッハやヘンデルやドボルザークを演奏致します。考えてみればこれ自体が全くすばらしいことであります。バッハの音楽に哲学を、ドボルザークの音楽に ボヘミアの山野を想い、ひたすらに美を求めて打込むとき、青年達は世界的な視野で歴史の重みを感ずるはずです。広く世界に通用する強固で、おおらかな青年像が確かにここに育っていると思います。

ここにも鈴木先生へ限りない敬愛の念を披歴するとともに、この仕事の一端を荷っている指導者の一人として心からの誇りと幸せを感ずるものであります。

井 手 章 夫

辛島輝治略歴（独奏者）

1959　東京芸術大学ピアノ科卒業
1961　第一生命ホールにてデビューリサイタル
1964　西ドイツ政府給費留学生として渡独
1967　ベルリン音楽学校を卒業して帰国
1968～69　ジロー室内楽シリーズに出演
　　シューベルト／ピアノソナタ全曲連続演奏会を催す

●師事した諸先生／故田中規矩、松野景一、ハンス・カン、田村宏
ゲルハルト・ブッヘルトの各氏

●バイオリニスト　豊田耕児氏、小林武史氏、黒沼ユリ子氏等と共演
現在、東京芸術大学で教鞭をとっている。

PROGRAMMA

1 Brandenburg Concerto n. 3 in Sol maggiore ····· J. S. Bach
Allegro moderato
Adagio Allegro

2 Concerto Grosso Op. 6 n. 1 in Sol maggiore ····· G. F. Handel
A tempo giusto
Allegro
Adagio
Allegro
Allegro

3 Concerto in re minore per Pianoforte e archi ····· J. S. Bach
Allegro
Adagio
Allegro

4 Concerto in Sol maggiore ····· A. Vivaldi
Allegro per 2 Violini, 2 Violoncelli, archi e cembalo
Largo
Allegro

5 Serenade Op. 22 in mi maggiore ····· A. Dvorák
Moderato
Tempo di Valse
Scherzo (Vivace)
Larghetto
Finale (Allegro vivace)

プログラム

1 ブランデンブルグ協奏曲　第３番　ト長調·····バッハ
アレグロ　モデラート
アダージョ　アレグロ

2 合奏協奏曲　作品６　第１番　ト長調·····ヘンデル
テンポ　ジュスト
アレグロ
アダージョ
アレグロ
アレグロ

3 ピアノ協奏曲　二短調·····バッハ
アレグロ
アダージョ
アレグロ

4 2つのバイオリン、2つのチェロと絃楽合奏のための協奏曲　ト長調·····ビバルディ
アレグロ
ラルゴ
アレグロ

5 絃楽合奏のためのセレナーデ　作品22　ホ長調·····ドボルザーク
モデラート
テンポ　ディ　ワルツ
スケルツオ（ビバーチェ）
ラルゲット
フィナーレ（アレグロ　ビバーチェ）

ブランデンブルグ協奏曲　第３番　ト長調

ヨハン・セバスチャン・バッハ
（1685～1750）

オルガン曲を除いてバッハの器楽曲の大半は、彼がケーテンの宮廷楽長であった1717年から1723年までの間に作られた。これは領主レオポルトが大変な音楽好きで優秀な宮廷楽団を持ち、自分もその中に加わるほどだったからである。６曲のブランデンブルグ協奏曲もここで作られ、演奏されたが、のちにまとめてブランデンブルグ伯に献呈されたのでこの名がある。各曲すべて楽器編成を異にし、その多様性は驚くべきものであるが、第３番は弦楽10部の合奏用に書かれ、ただ２つのアレグロ楽章から成る。荘麗極まる第１楽章は後にカンタータにも転用されている。

合奏協奏曲作品６　第１番　ト長調

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル
（1685～1759）

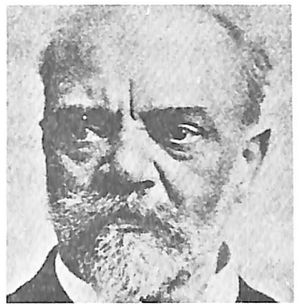
作品６の合奏協奏曲12曲はヘンデルの器楽曲を代表する傑作であるが、また一方この様式の楽曲のほとんど最後のものでもある。1739年に作ったこの曲集で、ヘンデルは数十年も前のコレルリの様式を忠実に踏襲している。この第１番は12曲中最初に完成されたもので、他の曲と同じく２つのバイオリンと１つのチェロを独奏部としている。ヘンデルの手稿では２本のオーボエが合奏に加えられているが、今日一般には弦楽だけで演奏される。第１楽章は力強い合奏ではじまるが、後半は弱音の和音が半音階的につづき第２楽章の軽快なアレグロに移行する。第３楽章は独奏と合奏の対話で、チェロの音型に著るしい特徴がある。第４楽章はこの曲の中心をなすフーガで、主題の転回も現われて展開するが、突然打ち切られて弱音で終る。終曲は明かるいジーグである。

ピアノ協奏曲　二短調

ヨハン・セバスチャン・バッハ
（1685～1750）

バッハは1723年以後、ライプチヒの聖トマス教会のカントールとして生涯を送ったが、そのうち1729年から12年間はコレギウム・ムジクムという学生演奏団体の指揮者としても活躍した。彼のピアノ（元来はチェンバロ）協奏曲13曲はすべてこの団体のために書いたもので、そのほとんどは自身あるいは他の作曲家の協奏曲を編曲したものである。この二短調も、原曲は不明であるがバイオリン協奏曲からの編曲と思われる。第１楽章はユニゾンの旋律される力強い主題が中心となって展開し、ピアノに華やかな動きが見られる。第２楽章では絃のユニゾンの旋律にはさまれてピアノが繊細な美しい輝やきを見せ、第３楽章は活発なアレグロで、ピアノのカデンツァが曲を盛り上げる。

J.B.Bach(1685～1750)



A.Dvorák(1841～1904)

２つのバイオリン２つのチェロと絃楽合奏のための協奏曲　ト長調

アントニオ・ビバルディ
（1675～1741）

協奏曲の独奏部に２つのバイオリンと２つのチェロを使うことはごく珍らしいが、ビバルディはこの組合わせで３曲を作曲している。この曲は彼の協奏曲の典型的な形式で書かれ、第１・３楽章はリトルネロ形式で合奏部の構成は単純だがかなり激しい動きをもっている。第２楽章は低音だけの伴奏で、独奏部が終始波打つような旋律を奏する。全曲を通じて独奏部はバイオリン２つの組とチェロ２つの組とにはっきりと分けられ、この２組が同格に扱われて、１小節なしい１楽節ごとに交代で主役となる。ただ１個所、第３楽章の後半にチェロの細かい動きの上にバイオリン旋律が重なって高潮する所があって、たくみに全曲の頂点を作っている。

絃楽のためのセレナーデ　ホ長調

アントニン・ドボルザーク
（1841～1904）

18世紀前半まで盛んであった絃楽合奏が、その後次第に管絃楽へと発展したために、19世紀には絃楽合奏曲がほとんど作曲されていない。1870年を過ぎてようやくこの曲やチャイコフスキー、グリークらの作品が現われたにすぎない。

このセレナーデは５つの楽章を持ち、おだやかな田園の情景を思わせる第１楽章に象徴されるように、詩的な情緒をたたえている。第２楽章は三部形式の優美なワルツ、第３楽章は陽気なスケルツォである。第４楽章は夜想曲風の美しい曲想で、その主題は第２・３楽章の中間部と関連をもっている。終曲は烈しい情熱を見せ、変則的なリズムや切分音がつづく。中間に第４楽章の主題、終りに近く第１楽章の一部が回想されて全曲の統一をはかっている。

メンバー紹介

東　田　渉
（バイオリン）
関西学院大　3回生

松　永　裕　子
（バイオリン）
大阪外大　1回生

鳴　海　温　子
（チェンバロ）
同志社女大　3回生

松　村　裕　美　子
（バイオリン）
平安女学院大1回生

仲　佐　悦　子
（ビ　オ　ラ）
府立大学卒

田　原　明　子
（バイオリン）
京都薬大　4回生

勝　馬　春　美
（ビ　オ　ラ）
本会バイオリン指導者

井　手　章　夫
（指　　揮）
本会々員　合奏科指導者

田　中　信　介
（バイオリン）
洛北高校　2年生

米　原　　徹
（チ　ェ　ロ）
京都大学　3回生

新　井　　覚
（ビ　オ　ラ）
本会バイオリン指導者

水　野　敬　子
（バイオリン）
滋野中学　3年生

壁瀬雅比古
（チ　ェ　ロ）
同志社大　4回生

野　村　武　二
（チ　ェ　ロ）
本会チェロ　指導者

長　尾　ま　や　子
（バイオリン）
大谷大学　3回生

森　田　　昭
（コントラバス）
本　会　々　員

支部事務所　京都市左京区下鴨東岸本町24　新井覚方　TEL（781）7998

80本のスピーカーからお好みの音が撰択出来る
京都唯一のスピーカーシステム

音と電化製品の殿堂 **アサヒムセン**

1F……電化製品　2F……オーディオ・パーツ

取扱メーカー　ナショナル・東芝・サンヨー・三菱・ソニー・ビクター
サンスイ・パイオニア・トリオ・ラックス・ティアック・その他外国製品

中京区河原町三条上ル一筋目東入ル☎231－4475電化製品　221－2334サービス　221－4212オーディオ

内　　科
小　児　科
レントゲン科
白　数　医　院

京都市中京区錦小路通室町西入

医師　白数久兵衛　　電話（221）1280番

主催／社団法人才能教育研究会京都支部